

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2018. 3  
No.295

### イナテックグループの人財育成

2018年がスタートし、3月はイナテックグループの中でも大切な人事異動の季節です。2月1日に内示し、1か月かけて引継ぎを行います。3月1日から、イナテックの2018年度の会社方針に沿った年度計画を各部署で戦術を練っていただき、5月のスタート時に最速で効果が出るよう準備をするわけです。

俗に「準備力」といわれますが、準備次第で結果の80%が決まってしまうと言われています。オリンピックでも、試合当日から何年も前から準備します。また、ボートレースでは、スタートが決まれば、80%以上の勝率というデータもあるようです。

それもすべて『準備力』なのです。だから、2月1日の内示からの3か月間は、いつもよりもよりも緻密に、具体的に、今年のテーマである「こだわり」を持って、全員で計画を立ててください。

今回の人事異動で思ったこと。

我グループの皆さんは、とてもまじめな方が多く、自分に与えられた仕事をこなしていただいています。世間でよく聞く「言った事もやってくれない」と嘆いている他社さんが多い中で、我々にはとてもありがたい話です。これから特に管理監督者にお願したいことは、『自分の次の人を誰にするのか』『次の人をどのように育てるのか』ということをはっきり示して、皆で育て上げていただきたいということです。

今は「人生100年時代」と新聞によく書かれています。仕事ができる時間は、たった40年ほどでしょう。しかし、会社は永遠に継続、永続させなければなりません。もちろん『稲垣ファミリー』は血縁を大切に、途切れることのないよう事業継承を一所懸命努力、実行しております。だから社員の皆さんも40年間という限られた時間の中で、次の人(社員)にバトンを渡していただきたいわけです。

そのような環境を(考え方も含めて)作るのには、社長を始めとする経営陣の第一の仕事です。4月には20名の新入社員が入社します。この20名の新入社員の40年間をお預かりするのは、我々先輩なのです。

「あのかわいい新入社員たち」も含め、「おれの次は○○だ、○○を育てきって俺の後釜にする！」という皆の気持ちの連鎖が、イナテックグループが永続する最重要項目だと思っています。

### 「100年に一度の大転換期」

これは、トヨタ自動車の豊田章男社長がおっしゃっていた言葉です。前月号のメッセージでも「第四次産業革命」を紹介しましたが、同じ意味だと思えます。まさしく新しい時代が始まっているということを真摯に受け止めなければなりません。

前述の「イナテックの人財育成」ではないのですが、今までの延長線上での発想ではなく、頭を柔軟にし、その時に「どうすればいいのか」、「どのように考えればいいのか」と対応する必要があります。

先走ることは必要ありません、『雨が降ったら傘をさせ』と松下幸之助氏が言われたように、雲行きを見、雨がポツポツと降ってきたなというときには傘がもう手元にあつて、傘をさせば濡れなくてすむというわけです。

頭の固い人は(準備力のない人、世の中や空気が読めない人、新聞を読まない人も)、雨がポツポツきてから傘を探し出す。ところが、整理整頓(頭の中も)できていないから、ずぶ濡れになる。ずぶ濡れになつてから雨宿り先を探す。すでにそこは人でいっぱい入れない。しようがないから雨の中を走るしかない。そしてくたびれ果てて風邪をひく。ひどければ肺炎を患つて入院、運が悪いとお亡くなりになる。

「雨が降つたら傘をさせ」は、大変重い言葉です。晴れた日に傘をさしていたら、手が疲れてしまい、肝心な雨の時に傘がさせなくなる。「そんな早とちりはやめとけ、雨が降り出してからでいいんだ」

だから、世の中が今どちらに向かつていて、どのようになつていくのかということをも議論しながら、新聞やいろいろな正しい情報を常に頭の中で熟成させておくことが大切なのです。

### 「足元を大切に」

先程の「頭を柔軟に……」の話で間違えてはいけないのは、「じゃあ今からイナテックは人工衛星を作ろう」、「一人乗りのドローンを作ろう」とか、若者の発想を大切に、もっと新しい発想、発案ができる若者を育てよう、という意見が出がちですが、そういう意味ではないとはつきり言っておきます。

我々イナテックは、今得意な技術でビジネスをさせていただいています。「そのビジネスが『第四次産業革命』でどうなるのか」、「お客様はどうなるのか」、「今の我々のどんな技術を深化させ、どのマーケットを目指すのか」などを柔軟に発想することが必要なのです。

### 五七

自老視少、可以消奔馳角逐之心。自瘞視榮、可以絶紛華靡麗之念。

老年になつたときの心持で若い者をながめれば、互いに馳けまわり争っている功名を求め、心持を、消すことができよう。また、落ちぶれたときの心持で榮えている暮らしをながめれば、うわべだけのはなやかな栄華を求め、絶ちきることができよう。(人は年少にして老後を思い、盛んな時に衰えた後を思ふべきである)。

例えば輸送手段は、人力車↓馬車↓2輪車↓3輪車↓トラックへと変わり、その波に乗れた人は成功者でしょう。私が子どもの頃は人力車でしたが、私たちの年代は、その変遷を見ませんでした。

昔、馬が全ての輸送手段だった時代、馬は人間の言うことを聞いて、一所懸命働きました。朝から夜中まで働く馬であれば、どんな馬でも良かったのです。今は、競馬場で走るサラブレッドの馬なら生き残れるでしょう。しかし、そんな馬は一部です。我々も馬のようになってしましますか。それとも、時代と共に手段を変え、世の中についていきますか。

どちらを選びますか。頭を柔らかくして考えてください。

「雨が降つたら傘をさせ」松下幸之助